向こう三軒両隣
ニコニコ健康づくり事業がスタート
～隣組単位できめ細かな懇談会～

長寿社会を迎え、当村においても六十五歳以上の人口が十三・四％（63年7月現在）となっています。

このようななかで、村では、現在建設中の老人福祉センターを村民の健康づくり、高齢者の生きがいづくりの拠点として、総合的な保健福祉対策を一層推進していくこととしていますが、そのひとつとして今年度から「向こう三軒両隣ニコニコ健康づくり推進事業」が十ヶ年計画で始まりました。

これは、住民一人ひとりが自ら健康の保持増進のために、今までの生活をふり返り主体的に健康問題を考え、個人、地域が実践できる体制づくりと活動の基盤づくりを進めようというもので、子供からお年寄りまでいっしょになって活発な意見交換ができるよう隣組単位できめ細かな健康づくり懇談会を開催しています。

今年度は、十一月二十一日から十二月十六日までの間、木津・小杉地区の二十隣組を対象に行われています。

懇談会には、役場関係課職員のほか医師も出席して適切な助言を受けるなかで、自分や家族の健康状態、村で実施されている健診・食生活、在宅福祉、地域福祉などのほか、常日頃疑問に思っていること、個々で健康づくりのために改善を進めていることなど何でも気楽に話し合われています。

気楽に話し合いが行われる懇談会（木津）

『横雲荘』
老人福祉センターの愛称が決まりました

順調に進む福祉センター建設工事

さきに募集していました、老人福祉センターの愛称が「横雲荘」（応募者＝神田イクさん・横越）に決まりました。

これは、応募総数三二点のなかから施設、位置、環境等を適切に表現しているものとして、選定委員で決定されたものです。

また、佳作には「横雲荘」（高橋基一さん・横越）、「横寿園」（高橋佳子さん・沢海）がそれぞれ選ばれました。

なお、老人福祉センター建設工事は、現在までに鉄骨の組立ができあがり、村の保健福祉・健康づくりの拠点にふさわしい姿を現わし、早期利用ができるよう急ピッチに建設工事が進められています。

善意をありがとうございます

▽越後天然ガス㈱グループでは、ガス展会場で「チャリティーセール」を行い、その売上代金十万円（一部会社の拠出金含む）を、恵まれない方にと村社会福祉協議会に寄付されました。

▽過日、亡くなられました木村三郎氏のご遺族木村三市氏より、葬儀に際しての香典返しとして五万円が村社会福祉協議会に寄付されました。

村社会福祉協議会では、ご厚志の意志に添うよう役立たせたいと感謝しています。

新しい家族　夫婦で子育て　No.9

東京都立大学教授・心理学
詫摩武俊

子供からみた親

子供の年齢がいくつであっても、子供にとってもっとも身近な人の中に親は入ります。子供にとって親はどんな意味をもった人でしょうか。

自分の世話をしてくれる人すぐそばにいるお手本、いい友達、対抗する目標、心のよりどころ、おおよそ以上の五つの意味があると思います。

そして子供の成長にともなって大体この順序で変化していきます。

移行は明確ではありませんし、同時に二つ以上の意味をもった存在であることもあります。

世話をしてくれる人これは説明することもないでしょう。食事、衣服の着脱、洗濯、通園、通学の世話など、自分を保護してくれる親の姿です。この時期の親の愛が大きく、子供に喜びをもって接していると、子供の気持ちは安定し、親に対する信頼がつくられます。親は年長の人として、言葉のつかい方、他人に対する態度、買い物の仕方、料理、遊びなどを教えてくれます。教えるという構えがなくても親の生活の仕方そのものが子供にはお手本になります。趣味や人生観にもこのことはあらわれます。

第三のいい友達というのは子供がやや成長してからのことです。年齢や性別を超えて、気ごころの分かった相手、安心して話せる人という関係になります。意見の対立も妥協できない見解の相違もありますが、一つの問題について共通の関心をもてることが望ましいのです。子供が親と同じ考え、同じ生活態度であれば少しも進歩はありません。親を乗り越えようとする意欲が望まれます。衝突し、対立する目標としての親の存在も大切です。心のよりどころとしての親は、主に子供自信が成人してからのことです親が亡くなったのちにも続きます。挫折したり困ったことがあったときに、親のことを思い出し、こんなとき自分の親はどうするだろうと考えてみることです。親に対して温かな感情をもっている場合にのみ可能です。

子供の心の中にある親の像は子供の成長とともに変わっていきます。そしていい親というのは時に応じて、前記の五つの役割を子供に示し、果たすことのできる人であると思います。

ご協力に感謝します
― 赤い羽根共同募金 ―

十月一日から始めた赤い羽根共同募金運動にご協力頂きましたが、結果については右表のとおりです。

このように、目標額を達成できましたことは、村民の皆さんの温かいご理解とご協力の賜ものであります。厚くお礼申し上げます。

なお、この募金は、昭和六十四年度に村社会福祉協議会に配布され各種福祉事業に使われます。

○実績額

一、九六五、五〇〇円
○県内の福祉に使われる額
四三一、〇〇〇円
○村社会福祉協議会に配分される額
一、五三四、五〇〇円

昭和63年度赤い羽根共同募金結果

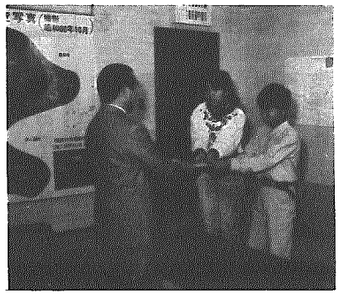
種類	目標額	実績額	達成率
戸別(封筒)募金	1,335,000円	1,439,253円	107.8%
法人(企業)募金	447,000	465,000	104.0%
学校募金	30,000	41,898	139.7%
無人箱募金	5,000	6,808	136.2%
職域募金	14,000	12,541	89.6%
合計	1,831,000	1,965,500	107.3%

横小児童会も協力
お小遣いのなかから募金

十月一日から全国一斉に赤い羽根共同募金運動が展開されましたが、横越小学校児童会でも、助けあい、住みよい地域社会をつくるための活動に進んで参加しようと、期間中委員が玄関に立ち呼びかけをし、自分たちのお小遣いのなかから募金を行い、共同募金会横越分会へ寄付しました。

十一月八日に土田重典君と佐藤裕美さんの二人が児童会を代表し役場を訪れ、集まった募金二七、二五一円を「恵まれない人たちのために役立ててください」と佐藤助役に手渡しました。

佐藤助役も心暖まる募金に感謝するとともに、労をねぎらいました。


助役に募金を手渡す児童会代表

安全をみんなでつなごう新たな年へ

十二月十一日から一か月間飲酒運転の追放、スリップ事故の防止などを重点に「年末年始の交通事故防止運動」が行われます。

年末年始は、とかく飲酒の機会が多いうえ、交通量の増大や降雪、凍結など道路環境が悪化するほか気ぜわしさも加って、交通事故の多発が予想されます。

村民総ぐるみで正しい交通ルールとマナーの実践に努め交通事故防止の徹底を図りましょう。

年末年始の交通事故防止運動
12月11日～1月10日

〔重点〕
◎飲酒運転の追放
◎積雪、凍結時の交通事故防止
◎踏切事故の防止

優秀運転者表彰申請のお知らせ

新潟南地区交通安全協会

交通安全協会では、来年五月頃優良無事故運転者表彰を行います。基準に該当される方は申請の手続きをしてください。

▼被表彰者の資格
○県表彰
・十五年表彰＝旧規程の七年表彰または十年表彰を受けていること
・二十年表彰＝十五年表彰を受けていること
・二十五年表彰＝二十年表彰を受けていること
・三十年表彰＝二十五年表彰を受けてから二年以上経過していること
・四十年表彰＝三十年表彰を受けてから五年以上経過していること
○地区表彰
・五年表彰＝免許取得後五年間無事故無違反であること。
・十年表彰＝五年表彰を受けていること

▼申請手続き
一月十日までに、新潟南地区交通安全協会事務局または最寄りの支部長へ申請してください。詳しいことは事務局☎三八一―二一二一へ連絡照会してください。

文芸欄
（公募作品）

短歌

越後野の阿賀の辺りは黄昏てすすきゆらめく
初秋の風

久々にはらから逢ひし里の墓眠れし父母を
偲びて拝む

木立にて今を盛りと鳴く蟬の明日の命は
誰ぞ知るらん

（沢海）渋谷　ウタ

毎月20日は交通安全家庭の日